

2-4 認知症介護指導者としてのその他の活動

指導者が地域包括支援センターと連携して認知症の人を支える体制づくりを展開

～認知症ひとり歩き(徘徊)の人を地域で支える取り組み～ (名古屋市)

【活動の概要】日常生活圏域内で活動を共にする名古屋市認知症介護指導者が、地域包括支援センターと協働して事例検討を行い、ひとり歩きSOSネットワークを組織したり地域向けのサポートブックを作成した。現在、啓発事業や名古屋市の事業計画に反映し、全区での実施に向けて活動が広がっているケース。

取り組みのきっかけ・背景

圏域内で発生した認知症高齢者が道に迷うケースを、指導者を含んだ地域のネットワーク会議で検討した。検討の過程で地域における見守りネットワークの必要性を感じた。専門職だけではなく、一般市民や行政も含めた会議を開催し、認知症の人が出歩いても戻ってこられるシステムづくりを目指すこととした。

取り組みの発展と成果

平成23年 地域ケア会議開催 (ケース会議が発展) SOSネットワーク検討

「瑞穂区ひとり歩きSOS支援会議」を設置

区政運営方針(行政施策)、区社協事業計画に反映

圏域内(区内)のニーズ把握調査実施(区内の居宅介護支援事業所、介護保険施設、病院対象)

携帯電話のメール機能(「ご近所ささえたい」に連絡)を活用した「瑞穂区ひとり歩きSOSネットワーク事業」の開始

区民向けシンポジウム開催、ひとり歩き模擬訓練実施

【発展】※ソーシャルアクションに発展

平成24年 「認知症ささえあい」地域フォーラム開催 認知症サポーター養成講座と合わせて啓発 他区での発見等の実績から、「名古屋市はいかい高齢者おかえり支援事業」に発展

平成25年 「ひとり歩きサポートBOOK」の作成・発刊

平成26年 住民の瑞穂区地域福祉活動計画と専門職の瑞穂区地域包括ケア推進計画がリンク(5か年)

平成27年 (予)第6期介護保険事業計画(はつらつ長寿プランなごや)反映

